

## PMI Japan Festa 2018 ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会 ワークショップ 実施報告

ソーシャル PM 研究会は 2018 年 10 月 14 日(日) PMI Japan Festa 2018 の 2 日目、前夜の交流会の盛り上がるの余韻も残る中『企業のソーシャル・スタートアップから学ぶ組織のアジリティ』と題したオリジナルのワークショップを開催しました。

社会課題への問題意識を持たれた 8 名の方に参加いただき、少人数ながら終始熱のこもったディスカッションが繰り広げられました。

### 【イントロダクションと講義】

ワークショップの冒頭ではアイスブレイクも兼ね、興味分野を示すカードを使った自己紹介により全体的に和やかな雰囲気がつくられました。



続いて稲葉涼太氏による講義です。

参加者の認識レベル合わせのために、SDGs と CSV、デザイン思考 + アジャイルアプローチ、リーンスタートアップについての最新動向レクチャーを行いました。レクチャーでは講師の経験談なども披露され、皆さん興味深く聴講されていました。「概要だけでなく具体的な事例を知りたい」といった質問・要望も寄せられ、参加者の意識の高さが感じられました。

### 【グループディスカッションとワーク】

ワークショップの後半は、座学で学んだ考え方や手法を使ったグループディスカッションとワークです。



企業のソーシャル領域における新規事業のスタートアップで、途中の戦略変更に対応するプロセス（＝組織のアジリティを発揮）を体感してもらうというものです。

「観光案内システム実証実験として IoT 事業部で自動販売機を利用したシステムを開発・運用している企業が、事業拡大のため『自動販売機の更なる有効活用』が投資案件として承認された」というモデルケースから、演習の前半では、リーンキャンバスとロジックモデルを使った新規領域の方策展開をしました。

そして演習の後半では「新規サービスの開始後、そのままでは当初目標達成が困難なことが分かり、経営陣からビジネスモデルの改善を指示される」展開となります。ここで「組織のアジリティ」を發揮し、改善された収益モデルのアイデアを出し合い、リーンキャンバスとロジックモデルを改定していきました。

様々なバックボーンを持った参加者による意見交換の中、ファシリテータも進行に苦慮する場面もありましたが、ディスカッション結果の発表では「組織のアジリティについての方向性」が示され、質の高い議論がなされたと感じています。

例えば、自動販売機利用者だけでなく、自動販売機オーナーや設置場所の地権者などもステークホルダーとしてとらえ、それぞれのステークホルダー層へアウトカムが供与されるような Win-Win-Win な提案までされ、主催者側の想定を超える素晴らしい発表もありました。

ワークショップには主催者からの知識伝達型の「学ぶワークショップ」と、参加者と主催者が皆で一体となって考えて方向性を導き出す「創るワークショップ」がありますが、今回は「創るワークショップ」により当研究会がワークショップ運営そのものについて学習することができました。

今回得られた知見を研究会独自のワークショップへフィードバックすることはもちろん、現在作成中の「ワークショップの手引き」へも反映していきたいと思えます。

フェスタでのワークショップ開催が初の試みだったこともあり、フェスタ運営スタッフと研究会スタッフとの認識合わせに手間どり参加者の皆さんにご迷惑をおかけした場面もあったかと思えます。ワークショップに参加いただいた皆さん、貴重な機会を与えていただいたフェスタ運営スタッフの皆さんに感謝申し上げます。

来年当研究会では社会課題解決のための手法を作り込んだ、オリジナルのワークショップを3回開催する予定で現在鋭意準備中です。詳細は PMI 日本支部の Web サイトで告知しますので、ご興味ある方は是非ご参加ください！

ソーシャル PM 研究会 PMO